

令和 8 年度 64 回生 授業概要（シラバス）

科目名	看護病態学	分野/教育内容	専門基礎分野/疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期	単位数/時間	1 単位/15 時間
担当講師名	金澤 瞳	所属・役職	県立宮古高等看護学院・専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	解剖生理・病因と病変の知識を活用して、看護の視点から病気を理解する		
到達目標	看護を行ううえで、重要な症状・徴候の病態生理の理解とその症状を持つ対象に必要な看護のポイントを理解する		
事前学習内容	授業で取り扱う症状について、対症看護を参考に、自分たちのグループで取り組む疾患に関連する疾病と治療のテキストを準備したうえで、授業に臨む		
成績評価の方法	出席点（10 点）、授業中のグループワークでの取り組み（20 点）、発表時の様子（30 点）、指示された自己学習の取り組み内容（30 点）、グループワークの成果物（10 点）をもって評価する（合計 100 点満点）		
使用テキスト	● 学研 看護過程に沿った対症看護（第 5 版） ● 参考テキスト：医学書院 解剖生理学（第 11 版）、その他自己学習やグループワークの取り組みに必要と感じた「呼吸器」「循環器」「内分泌」「脳神経系」等の疾病と治療の授業に関連するテキストを授業に持参する		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	授業概要の説明、取り組みの進め方についてオリエンテーション 「発熱」症状を示す対象の看護を考える		講義・個人ワーク
第 2 回	それぞれの症状・徴候を示す対象の看護を考える ・ 「悪心／嘔吐」 ・ 「 腹 痛 」 ・ 「呼吸困難」 ・ 「 浮 腫 」 ・ 「食欲不振」 ・ 「倦怠感」 ・ 「咳嗽・痰」 ・ 「意識障害」		グループワーク
第 3 回			
第 4 回			
第 5 回			
第 6 回			
第 7 回	発表とまとめ		演習
第 8 回			講義
履修上の留意点	・ グループワークが中心となるため、協力して取り組むこと。発信力・積極性・グループの計画性も評価対象となる。 ・ 自己学習は計画的に、進めて行くこと。自分なりの学習の仕方や関連図のまとめ方を試行錯誤しながら、主体的に取り組むこと ・ 不明な点は積極的に質問し、分からないところは授業の中で理解するように努めること ・ 教科書だけではなく、他の文献も最大限に活用しながら自己の知識を深めること		